

□JPA震災情報(第27報)-----2011.4.19-\*

-----発行:日本難病・疾病団体協議会(JPA)事務局

患者団体、関係者のみなさんへ

4日ぶりのJPA震災情報「第27報」をお届けします。

★「生活支援ニュース」第3号

★東北大学病院への支援活動、北日本新聞で紹介

(NPO 法人難病ネットワークとやま)

★いわき市診療援助(国立精神・神経センター村田先生のレポ)

★IBD患者のための無料電話相談を開催

★ニュースから

(水谷)

---

★厚生労働省「生活支援ニュース」第3号 4月19日号が発行されました。

「自宅にとどまっている方にも情報提供を」とよびかけています。

今号6ページには、難病に関する東北6県の相談先および県担当課連絡先に加え、JPAについても、難病・慢性疾患に関する各種情報提供や、患者会の紹介を行っていますとして電話、FAXが掲載されました。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000014uzs-img/2r98520000019m1n.pdf>

携帯版「生活支援ニュース」はこちら

<http://mobile.mhlw.go.jp/jishin/seikatsu/index.html>

また、「生活支援ニュース」に読み上げ機能を付け視覚障害者向けに情報提供している視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」のホームページも厚生労働省ホームページに紹介されています。・厚生労働省発行、被災地の方々向けの「生活支援ニュース」第3号（視覚障害者向けテキスト版がダウンロードできます）

[https://www.sapie.or.jp/news/86/show\\_local](https://www.sapie.or.jp/news/86/show_local)

---

★前号でお知らせした東北の病院支援・難病ネットワークとやまの活動が、地元新聞で報道されました！

■被災地医療を後方支援 富山の難病患者団体

(北日本新聞 2011 年 04 月 17 日 00:48)

難病の患者や家族でつくる「NPO法人難病ネットワークとやま」富山市清水町、中川みさこ理事長)は、被災した宮城県石巻市の病院に派遣されている東北大(仙台市)や現地の医療者を支援するため、食料などの救援物資を送っている。被災地では十分な食事を取れないまま、医師らが日夜、懸命な医療活動を展開している。今後は他県の患者団体と連携しながら物資を送る予定で、協力してくれるボランティアを募集している。

東北大神経内科の青木正志医師から同法人に届いたメールによると、石巻地域では物流が滞り、医療品は何とか確保できているものの、食料不足は依然として改善されていないという。「医療者に配る食料を送ってほしい」と協力を求められ、同法人は今月12日に野菜ジュース180本とサバの缶詰230缶などを発送した。

他県の難病患者団体からも協力したいという申し出があり、同法人が窓口となって必要な物資を送ることにした。中川理事長は「医療者はかなり疲れていると聞いている。被災地で足りない物を送ることで役に立てるならうれしい」と話している。物資の買い出しや発送作業のボランティア、支援金も募っている。

問い合わせは中川理事長、携帯電話090(4328)6994。(社会部・中田真紀)

※添付写真は、青木医師(後ろに映っているのが送った支援物資)

振込先は郵便局で

特定非営利活動法人難病ネットワークとやま

00710-8-56431

ブログも日々更新されています。

<http://nanettoyama.jugem.jp/>

---

★いわき市診療援助

国立精神・神経医療研究センター神経内科 村田美穂先生

\* 全国パーキンソン病友の会「事務局便り臨時6号(4月20日号)より転載

4月11～13日にセンターの災害支援チームとしていわき市に行きました。精神科医2名、神経内科医1名、内科医1名、看護師2名の6人のチームで基本的には福島県立医大の心のケアチームに所属して活動し、神経内科は福島県立医大神経内科宇

川教授と連携で、いわき市の神経内科診療(特に神経難病診察)をどのように援助するかを決めることが任務です。私は避難所2カ所でチームメンバーと共に診療するとともに、保健所、いわき市立総合磐城共立病院、NHO(国立病院機構)いわき病院を訪問し、宇川教授はじめいわき市の神経内科診療に関わる主な医師と面談しました。

いわき市は3月中は断水、ガソリンその他物資の不足がひどかったのですが、4月11日昼の時点では、物資もかなり行き渡り水道も97%まで復旧し、市民の生活には大きな支障がないレベルに復旧していました。常磐線も各駅停車は11日から上野いわき間で開通しました。避難所には近隣のクリニックから訪問診療もあり、処方もしていただけますし、日本医師会の医療チームやNHOいわき病院の薬剤師、リハビリスタッフも巡回してくださっていました。私も避難所で4人ほどパーキンソン病関連の患者さんを拝見しましたが、お薬も処方されて、そう大きな問題はなく過ごされていて安心しました。保健所は何十カ所もあるので、いわき市内でも場所によりかなり違いがありますが、一応物資は供給されていました。市内の主な病院、クリニックもほぼ再開されており、3月中の予約の患者さんの安否確認もほぼなされていました。

ただ、11,12日の大きな余震で再び停電、断水などがおきたことで、避難者はもちろんのこと一般市民、更にこれまで不眠不休で頑張ってきた市の職員の落胆が大きく、こちらに関しての心のケアもかなり重要と思われました。

NHOいわき病院は海岸近くにあるため、津波の被害を受け、入院中の患者さんは水戸や霞ヶ浦その他のNHO病院等に医師、看護師等と共に移送されておられます。いわき病院は院長先生以下幹部が残り、復旧作業を進めずでに外来診療は再開されました。幸い医療機器の被害は比較的少なかったのですが、原発問題もあり、通常の入院診療の再開の日時はまだ決定していないということでした。

心配していた磐城共立病院の神経内科外来も4月からは以前と同様に戻るようになりました。他県などへの避難の影響で人口がやや減っていることもあり、今しばらくはいわき市内の現在の人員でほぼ診療可能で、重症例などは県立医大にてカバーし、必要なら当センターにご連絡いただくことになりました。当センターとしては、今後原発問題の状況を見ながら長期的な対応について、逐次地元の先生方、宇川教授と相談しながらできるだけの支援をして行きたいと思っています。

ナショナルセンターとしては、いわき市や他の被災地から全国に避難された神経難病をお持ちの方々を支援するために、医療相談窓口を開設しました。こちらを上手にご利用いただけるよう、周知を図っていきたくと思っています。

いわき市は海に面していて、おいしいお魚と美しい海岸、温暖な気候と大変住みやすい町です。美空ひばりの歌碑があることでも有名な塩屋岬もありますが、この周辺も今回の津波で大きな被害を受け、周辺は流された家や、車、冷蔵庫、その他がれきが山積みされていました。

地震、津波、原発事故という、本当に大変な災害ですが、いわき市が大好きないわ

き市民の頑張りです。少しずつ町は正常化してきています。1日も早い復興をお祈りしています。

---

★IBD(潰瘍性大腸炎、クローン病)患者のための無料電話相談を  
開催(主催:NPO 法人日本炎症性腸疾患協会、共催:IBD ネットワーク)

実施日時:2011年4月29日(金・祭日) 10:00~16:00

対象:東日本大震災により被害にあわれた潰瘍性大腸炎・クローン病患者さんと、ご家族、関係者

相談員:医師・栄養士・患者会相談員

相談費用:無料(ただし通話料はかかります)

相談時間:1人20分以内(受付時間は除く)

電話番号:03-3364-0514、03-3364-0515、050-3508-7731

ご注意:

(1)今回の東日本大震災の被災者の方で、潰瘍性大腸炎、クローン病について心配ごとのあるかたを対象とした電話相談です。

(2)県外に避難されている方も対象となります。

(3)医師・栄養士・患者が対応いたしますが、ご質問内容によってはお答えしかねることもありますので、あらかじめご了承ください。

(4)ご質問にお答えするため、病状や現在の状況を質問させていただきます。秘密は守られます。

(5)一人でも多くの方のご相談をお受けしたいと思っています。相談時間は厳守でお願いします。

連絡先:NPO 法人 日本炎症性腸疾患協会(CCFJ)事務局

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-22-1 社会保険中央総合病院内

TEL:03-3364-0514 FAX:03-3364-0515

Mail:[ccfj-jimu@sunny.ocn.ne.jp](mailto:ccfj-jimu@sunny.ocn.ne.jp)

---

## 【ニュース】

○ライフライン途絶 震災時の病院給食(上)

— 「食事絶やすな」栄養士ら奮起

( 2011 年 04 月 18 日 08:00 キャリアブレイン )

<https://www.cabrain.net/news/article/newsId/33683.html>

○ライフライン途絶、震災時の病院給食(下)

－ 首都圏では計画停電が直撃

( 2011 年 04 月 19 日 08:00 キャリアブレイン )

<https://www.cabrain.net/news/article/newsId/33717.html>

○被災から1か月「ぎりぎりの状態で働いた」

－ 宮城県内の訪問看護師・医師座談会

( 2011 年 04 月 18 日 15:57 キャリアブレイン )

<https://www.cabrain.net/news/article/newsId/33706.html>

○避難所生活の長期化がもたらしたもの JMM配信日:2011-04-19

石巻赤十字病院 植田信策

[http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22\\_2368.html](http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22_2368.html)

○生命を奪う規制 第1回 阻まれた医薬品の流通

JMM 配信日:2011-04-18

立教大学大学院 法務研究科 法務専攻 五反田美彩

日本大学法学部法律学科卒 小倉 彩

[http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22\\_2364.html](http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22_2364.html)

○生命を奪う規制 第2回 届かない規制緩和の情報

JMM 配信日:2011-04-18

立教大学大学院 法務研究科 法務専攻 五反田美彩

日本大学法学部法律学科卒 小倉 彩

[http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22\\_2365.html](http://ryumurakamijmm.co.jp/dynamic/report/report22_2365.html)

---

★みなさまからの情報をお寄せください。

\*-----\*

◎緊急な場合の連絡は水谷の携帯(090-8501-4281)までお願いします。

なお、メールは随時チェックしています。

JPAホームページ <http://www.nanbyo.jp/>

震災情報ブログページ <http://blog.goo.ne.jp/jpa2011>

(こちらに声をお寄せください)

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

日本難病・疾病団体協議会 (JPA、Japan Patients Association)

事務局長 水谷幸司

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28 飯田橋ハイタウン 610 号

電話 03-6280-7734 FAX03-6280-7735

<http://www.nanbyo.jp/> [jpa@ia2.itkeeper.ne.jp](mailto:jpa@ia2.itkeeper.ne.jp)

\*-----\*

---